

2022 年度会津若松経営品質賞 申請組織紹介

株式会社三義漆器店

株式会社三義漆器店は、430年の歴史を持つ「会津塗」を普段使いの器としての強度耐久性を求めて塗を施し多くのお客様に使っていただくために量販店を主軸に事業展開しています。そして、会津塗を守り広めることが「会津伝統産業の継承」であり「地元への貢献」との考えから時代に合わせた会津塗製品を提供する、新たな技術で喜びを創る塗り物を通して未来に幸せと感動を繋ぎ、世界の人々と共に健やかな人生のうらおいを共有する「人生のうらおい製造業」として「さんよし商い」を実践し、「日本一幸せな漆器店」を目指しています。

【仲間を幸せにする家族経営】

社長や幹部は、社員は同志、社員の笑顔と健康を幸せと考え、同志のつながりを大切にし、社員とその家族を幸せにするために、組織として大切にしている価値観や経営ビジョンに加え、経営の目的と手段、経営者の責務や社員の役割などを理念 book に込め、収益に結びつくことだけを成功とせず、支えあう同志と志事を深化させる組織文化を醸成させています。社員は理念 book を手元におき仕事の拠り所として活用することで、それらが規範となり、さんよし商いのための行動と自分の成長につなげています。また、地域課題でもある雇用維持と雇用創出を強く意識し、障がい者雇用も含め、仕事の創出にも力を入れて取り組んでいます。

【安定供給と競争力ある品質・納期・価格を発揮】

先代や創業の意思や思いを引き継ぎながら、企画デザインから製造までの一貫製造体制の磨き上げに加え、製造や卸業者などのビジネスパートナーとの連携の強みを活かして、安心安全な商品の安定供給と競争優位性を発揮しています。業界でいち早くロボット塗装・射出成型を導入し品質向上と効率化に取り組んだり、スキルマップを使った技術力アップに加え、多能工化と部門を超えた応援体制、改善提案制度や QC による現場主導型の改善活動などで、昨今の厳しい情勢の中でも、品質・納期・コストを維持しながら売上を伸ばしています。

【使う身になっての商品企画と、常識やしきたりにとらわれない商品作りへの挑戦】

商品利用者との接点が少ない中、最終顧客は商品利用者であると強く意識し、卸業者を通じての情報収集以外にも、商品利用者の顧客志向を理解しようとしています。そうした情報をもとに、自社のもつ技術とノウハウを活かして、使う身になっての商品企画を行っています。新規市場への取り組みにおいても、限られた人材資源の中で、社長がアイデア発掘と企画を行い、製造本部長が具体化を行うツートップでの体制で、ビジネスパートナーとの共同開発で商品化の道筋をつけています。撥水効果に優れた合成漆器も誕生するなど、常識やしきたりにとらわれない商品作りを行っています。植物由来プラスチックを原料としたタンブラーも、国際女性会議のお土産に採用される等、会津伝統産業の認知にも寄与しています。